

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <http://kouhoku-saibora.jimdo.com> FB 港北区災害ボランティア連絡会

第 65 号

2018 年 5 月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

新年度、みんなでこんなことをやりませんか

* 大切なんだけど でもね

何時来るか分からない災害対策はなかなか自分事にはなりません。しかしひとたび災害が起これば全ての人に影響を受けるのです。ですから防災に関する自分の悩み、戸惑い、知りたいこと、知らないことを連絡会会員が見つめ合い、出し合う中で対策をみんなで考えていくようになると、防災が自分事になっていくヒントを見つけやすくなるのではないのでしょうか。

実際に被災した方からは

- ・何をすれば良いですか
- ・まとまったお金がないのですが
- ・被災してもローンは払い続けなければならないのですか

など数多くの日常生活の戸惑いが寄せられています。過去の災害現場での声やつぶやきを拾う中から得た「知識の備え」が防災・減災やつながり、最後の早期の生活再建につながることを知しましょう。

そのために

「知りたい」を出せる連絡会

「知りたい」を出す会員

「知りたい」に答える連絡会

を作り上げようではありませんか。

* 避難所(地域防災拠点)を快適にするために

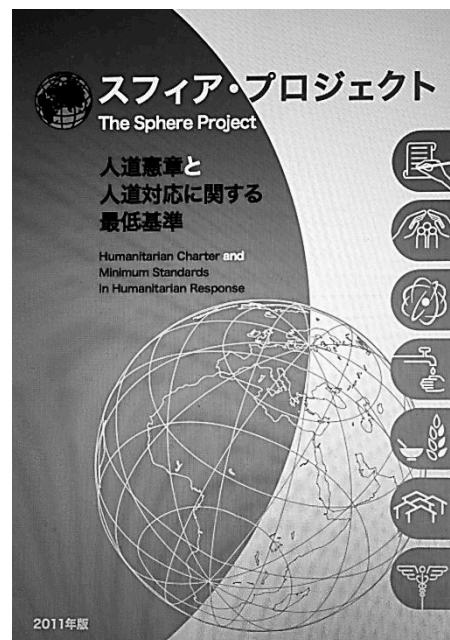
日本の避難所環境の劣悪さを前号に書きました。それを克服すべく最近では国連が定めた難民キャンプ運営上の基準「人道憲章と人道対応に関する最低基準」略称「スフィア基準」と呼ばれるものが防災界では広がっています。そこには、必要な水や栄養の供給量、トイレの設置位置や数、避難所の一人当たりの面積、保健サー

ビス等が定められています。残念ながら日本の避難所はこれらの水準を満たしていません。熊本地震の際テント村開設に尽力した登山家の野口健さんは「日本の避難所はソマリアの難民キャンプ以下だ」とまで言っています。

今年度は拠点との関係づくりが大きなテーマになってきます。現実にはただちに改善するのは難しいですが、一つ一つ具体的な提案をだし

避難所の環境改善を目指したいものです。私たちも避難所にお世話になる可能性があるのですから。

(宇田川)



ネット検索可能です

次回 定例会

6月20日(水) 10:00~12:00

タスクを決め、2018年度の活動が始まる回です。みなさん、出席お願いします。

【ようこそ連絡会へ】

池田事務局長が横浜市社協地域福祉課に異動しました。替わってみえた島本新事務局長は中区や戸塚区などを経て市社協で活動した後の港北区です。石河さんは新卒のフレッシュ職員です。今年度から連絡会担当は遠田さん、石河さんとなりました。藤原さん、2年間ご苦労様した。

島本 洋一さん（港北区社協事務局長）

この度の人事異動で池田前事務局長の後任として着任しました島本です。市社協から異動してまいりました。どうぞよろしくお願ひします。

災害ボランティア活動について一番に思い浮かぶのは、東日本大震災の際に釜石市社協の災害ボランティアセンターに応援に行った経験です。4月下旬から5月の連休時、全国から集まった大勢のボランティアが、よりよい活動が行えるように支援現場に送り出す役割を担わせていただきました。その際、現地スタッフの動きをみて、災害時のニーズ把握やマッチングは、その地域、そこに住む方々を知らないと難しい！と痛感しました。災害ボランティアの活動も地域福祉の取組みと同じように、日頃からのつながりが、たいへん重要だと感じています。港北区のまちと人を知り、より有意義な活動が出来るよう取組みたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。



手話 はじめまして

石河沙也佳さん（連絡会担当）

4月1日から港北区社会福祉協議会に配属されました石河沙也佳です。3月までは法政大学現代福祉学部の学生でした。阪神淡路大震災の年に生まれ、東日本大震災では中学3年生でした。

私は、小学生では防災の講座に参加したり、今は防災グッズを持ち歩いたりと災害に関心はあり行動できていると自負していました。けれ

ど、先日災ボラの定例会に出席させていただいた時、それは驕りだったと恥ずかしくなりました。私は被災したら、周りの誰かが助けてくれると漠然と考えていたからです。

被災すると個人や家族単位でやれることは限りがああります。けれど、地域全体であればどうでしょう。日常的な繋がりや意識があれば、災害という緊急事態でも行動できると思います。繋がりには大きな備えです。私も、みなさんとのつながりを強くしていきたいです。どうぞこれから、よろしくお願ひいたします。

リレー連載 我が家の防災 ⑬ 水越さんちの防災

大きな意味で防災になるかな？と思います
が・・・

我が家に起こった4年前の出来事です。

私の主人が倒れたのです！！段々唇がしびれたような感じになり、これはおかしいと思い自分で救急車に連絡し、5才の息子に今から倒れるから玄関の鍵を開けて、外にでるからジャンパーを着なさいと言いながら動けなくなっていたそうです。救急車が到着した時刻は、夕方18時ぐらいでした。共働きの方も多いのですが（私も仕事で研修先にいました。）、ご近所の方がいらして、うちの息子は大丈夫なのか？何かあったらと見守っていてくれたそうです。本当にありがたい気持ちでいっぱいになりました。

今の所に住んで約2年ぐらいでした。平日家に居ない分、町内会の行事（防災訓練やお祭りなど）にはなるべく積極的に参加していましたが、このような事が起こり、あらためて顔の見える関係の大切さや、いざという時にあそこにはどんな人が住んでいるのか？など知っておくのも必要な事だと思いました。それは、災害が起こった時も同じですね。

掲載の写真はその主人が通っている、中途障害者の作業所で防災訓練を行った時にもらった緊急時医療情報キット（原則として、一人暮らしの高齢者で健康に不安を抱えている方で希望をする人）です。このような物があるのを知ってもらう事が一番難しいですね。（水越弘子）



情報を入れるカプセル

必要情報を書き込む用紙

* 救急医療情報を冷蔵庫に保管する事は多くの自治体や消防署が推奨しています。ネットではその作り方が紹介されていますし、既製品を買う事もできます。作り方は以下のページで。

<http://www.skysodan.com/Koureisya/data/kyuukyukit.pdf>

被災地商品の活かし方

皆さんも販売活動の際に購入なさっていると思いますが、その積極的な活かし方です。

- 1、家庭で積極的に使う
 どんどん消費して「買って支援」を実行。
- 2、おつかいものにする
 それほど気を使わないでもよい相手への贈り物にすると、これをネタに被災地支援の話から防災へと話しを進めやすくなる。
- 3、贈答品パックを作る
 様々な商品を箱詰めするとお洒落になります。箱やラッピングペーパーは100円ショップで可愛いものを買って作る事が出来ますよ。

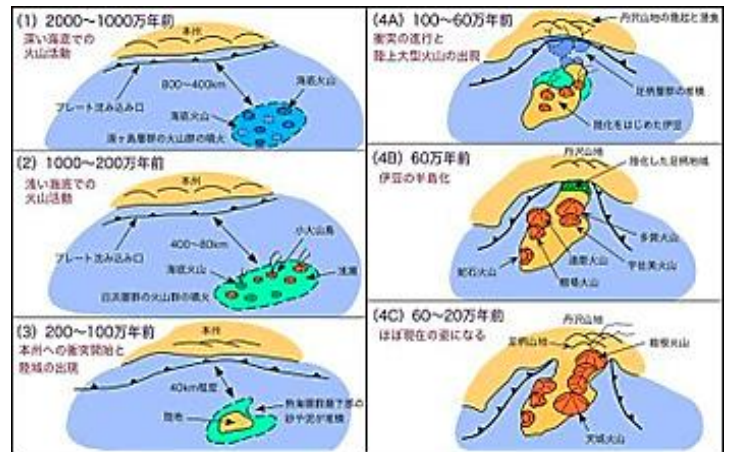
ジオパークに行ってみよう

皆さんジオパークってご存知ですか？
 ・ジオパークとは、「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を

学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。（日本ジオパークネットワーク）

ところで伊豆半島が昔は太平洋の島だったって知っていました？

今年4月伊豆半島が世界ジオパークに認定されました。それは伊豆半島がフィリピンプレートに乗って60万年前に本州とぶつかってできた半島であり、その結果半島内に地球の動きを示す珍しい景観が有ることからなのです。伊豆半島が本州とぶつかったところにある箱根もジオパークに認定されています。地震を起こす力であるプレート運動。その動きの証拠が、横浜から電車で1時間ちょっとの所にある伊豆箱根です。大地の動きが生き生きと分かる観光地であるという観点から、ジオスポット巡りをするのも面白い伊豆箱根観光ですね。



シリーズ 地域を知ろう

区内で活動する団体や個人を取り上げ、発災時の効果的な救援活動にもつなげようとの企画です。

今回は今年から区内限定で発行されているフリーペーパー「えがお」の編集長の本間さんに、シニアにかける期待を書いて頂きました。

「人生百年」
 会社をやめたら悠々自適も選択肢。
 しかし今も貴方のちからを必要としている。

私は取材で80代後半の「プラチナ世代」の高齢者と話す。プラチナ世代は決まってこうアドバイスをしてくれる。
 「好きなことだけやればいい」

「もっと街に出て人と会って社会に参加して
いたほうが良い」

社会参加をしている高齢者は20%
社会参加したくてもしていない高齢者は30%
社会参加したくない高齢者50%
つまり高齢者の半分は社会参加したいのである。
そして現状では、80%は社会参加していないの
である。

専業主婦は減り、子育て世代の男女は働いてい
る。

地域活動 美化清掃 街作り もしもの時の
「防災」

上記の社会の課題を解決するのはシニアである。
いや「シニア」しかいない。

なかでも「防災」にはシニアの参加が必要だ。
先の大震災で「帰宅困難」になったのは働く世
代。

その世代が帰宅できなくても災害問題は待つて
くれない

街の課題は緊急なのだ。

その時にシニアは主役になる。

現在の多くのシニアはきっと経済的には豊かだ
である。

しかしその豊かさは「幸せ」には直結しない。
人は「誰かの幸せに貢献できた」時だけ幸せな
のだ。

少し照れくさいかもしれないが、毎日が充実し、
これまでとは違った達成感とかけがえのない一
生の仲間。

これを得られるのはちょっとした勇気の先にあ
る「社会参加」だ。

「街へ出てみないか」



港北区限定！
プラチナ世代交流フリ
ーペーパー「えがお」

連絡先

〒222-0032

横浜市港北区大豆戸町 423-3 菊名台ハイツ 102

TEL 090-8305-1006 FAX 045-299-6432

克美企画 編集長 本間 克之

*フリーペーパー「えがお」は港北社協3階の
レタースタンドにも置いてあります。

一口メモ

新聞に載っていた熊本の読者の意見から

「減災へ備え続ける」 2018. 4. 24 (読売新聞)

災害時を想定して、10年余り前から食器や
書籍など重さのあるもの出来るだけ処分し、厳
選したうえで作り付けの棚の下段に収納してい
る。そのおかげで地震の時には落下物はなく、
大怪我をせずすんだ。改めて物を減らせば、
減災対策につながることを痛感させられた。

これからも自活できる備えとともに、物の整
理を徹底させておきたい。

私も同意見です (付岡)



【編集後記】

☆今年は大規模ゴールデンウィークでしたね。そ
んな中でも東北や熊本の被災地で活動を続け
るボランティアがいます。被災地の復興には
長い長い時間がかかります。(宇田川)

☆一人暮らしの母に緊急時医療情報キットを用意
したいと思います。(室伏)

☆暑くなってきました。これからが最も熱中症
の多い季節です。湿度が高く、身体が汗をか
けないこの時期が危険です。気をつけましょ
う。(中島一)

☆連休！自宅です。災ボラの2017年度を振り返
っています。何してきたかなあ…？(付岡)